

学校経営のポイント

“体力・精神力・学力の循環” 点検

若井 彌一

経済界では「負の連鎖」がきわめて深刻な状況を呈しているという。

11月19日付けの『読売新聞』では、第三面で「銀行株 下げ止まらず」の見出しで、ほぼ丸一面を費やして、歯止めがかからない銀行株の急落が、その融資先である「過剰債務企業の株価下落」に波及し、それがまた銀行株の下落を招くという「負の連鎖」を解説し、いわゆる「竹中プラン」と呼ばれている“荒療治”策ではわが国の金融は再生できないことを社説で強調している。

“負の連鎖”をどう断ち切るか

効果的な経済政策が打てないでいることに、国民の多くが強い不安を抱いているのがわが国の昨今の現実であるが、教育の世界でも「負の連鎖」が見られるのかどうか、点検を試みる必要があるであろう。

マスコミ等で主に騒がれている（表現の適否はともかくとして）のは、いわゆる「学力の低下」であるが、解説するまでもなく、この「学力の低下」は、学んだ結果としての知的能力である。

「学力の低下」の指摘や教育政策批判が表面化していることもあって、最近では文部科学省の方針に基づいて、国立教育政策研究所が実施主体となって、国・公・私立の高校3年生約10万5,000人（抽出調査）を対象とする学力調査（教育課程実施状況調査）が実施されたりしている（40年ぶりの全国的規模の学力調査。11月12日実施）。

また、都道府県でも独自に生徒・児童の学力調査を実施する方向で取り組んでいるところが出てきている（埼玉県など）。

どのくらいの「学力」がついたのかを確認し、そ

の結果を、その後の教育活動のあり方についての参考にすることには意義がある。

“体力・精神力・学力の連鎖・循環”点検をところで、断るまでもなく、学ぶのは児童・生徒本人であり、また、教育活動のねらいも一人ひとりの児童・生徒に自ら学ぶ力をつけることにあるのだが、結果としての学力が低下してきているとするならば、児童・生徒の「学ぶ力」が低下しているのではないかを検討してみる必要があるであろう。

「学ぶ力」といっても、それは内容的に考えてみると、学ぼうとする意欲とか素朴な関心と、学びの方法に関連している知識・技術あるいは思考様式に大別することができよう。

そして、学ぼうとする意欲とか素朴な関心とかは「生きようとする意欲（生活意欲）」「何かをしてみようという挑戦意欲」「自分をよりよい方向へ変えていこうとする意欲（向上意欲）」とは不可分のものである。

また、これらの精神的な力（意欲）の土台をなしているものが体力（行動体力と防衛体力の総称）であることはもちろんである。

こう見てくると、結果としての学力の調査にだけ目を向けるのではなく、わが国の児童・生徒の体力・精神力、そして学ぶ力を循環的・総合的にとらえて、どこをどのように補強していったらよいかを重視した取組みを各学校において心がけることが必要なのではないか。各学校の積極的取組みに期待したい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

■好評発売中！ 資料CD添付／定価2730円■

教職研修‘02情報版

11月の新刊ご案内

教育開発研究所刊

指導力不足教員への経営戦略

B5判230頁・定価2500円 11月19日発売

子どもの奉仕活動・ボランティア活動をどう進めるか

A5判220頁・定価2310円 11月19日発売

最新指導方法・評価キーワード

A5版230頁・定価2415円 11月27日発売